

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝



役割で子ども同士がつながる

秋晴れが期待できる9月に、運動会を行う幼稚園や保育所が多くあります。先日、ある園を訪問したときの微笑ましいエピソードを紹介します。

5歳児の年長組の子どもたちが、自分たちのかけこの練習が終わると、次は年下の子どもたちの競技のために、はしごや網などの用具係を担当しました。元気すぎて時々集団からはみ出してしまうA君。



友達からから注意を受けて、落ち込むこともあります。しかし、年下の子どもたちの用具係をしているA君は、網を持った途端、「ここを引っ張ると持ちやすくなるんだよ」、「みんないっか、力を合わせて引っ張るよ」とリーダーシップを発揮するではありませんか。A君の適切なアドバイスに、周りの友達から「ありがとう」という感謝の言葉が起きていました。それに対して満面の笑みを浮かべるA君。もはや自分の気持ちをコントロールできない課題があるA君ではなく、みんなのヒーローでした。そんな張り切って活動しているA君を、保育者は見逃さずアイコンタクトでメッセージを送っていました。それはA君が育つ瞬間でもありました。

「絵が上手に描けたね」、「走るのが速かったね」と、個人の頑張りが認められることも自信になりますが、自分の行動や存在が、みんなの役に立った、周囲の友達により影響を与えられたというように、集団の中で認めてもらえる方が、より達成感が大きくなり、自分の存在価値を高めることになります。



誰かのために力になった、役に立ったことを実感するために、子ども同士が「役割」でつながる関係を築くことが大切です。子どもは人とのつながりの中で、「役割」を果たしながら、ゆっくりと成長していきます。「役割」で子どもたちをつなぎましょう。「役割」を果たしながらなりたい自分にチャレンジする子どもを育てましょう！



必ず輝く未来が待っている!

もしタイムマシンを使えるとしたら、過去に戻りたいですか、それとも未来を覗いてみたいですか。ある調査では、「過去」派57% 「未来」派43%でした。

■「過去」派の意見

「亡くなった母に会いたい」「未来を見てしまうと期待がなくなる」

「当時のことを大人目線で見たい」「過去に戻って自分に言いたいことがある」

■「未来」派の意見

「悪い事が起きていると分かったらそれを回避できるかもしれないから」「今よりも技術が発達し便利になった世界を見たい」

- 「ぼくはタイムマシンに乗って1歳半頃に戻りたい」と、5歳の子どもが先生に言ったそうです。理由を尋ねたら、「その頃は覚えていないけど、きっと家族が仲良く過ごしていたと思うから」と答えました。今、その子のご両親の関係はうまくいっていないようです。園では、元気のない表情をしたり、スキンシップを求めたりするそうです。とても切ない気持ちになりました。担任には、「毎日登園してくるその子を認める言葉をかける、話を聴いたりスキンシップをしたりする時間を設ける」というアドバイスをしました。

